

なぜ座光寺には古墳が多いの？

座光寺には77基の古墳があったことが知られています。これは奄美地区の140基の次に多い数で、松尾地区の70基より多い数です。飯田市内には520基の古墳が知られていますから、座光寺には約15%の古墳があることになります。このことは何を意味しているのでしょうか。

古墳ってなに？

古墳とは土を盛り上げて造られた古代のお墓です。ショベルカーなどの重機がなかった時代に、大量の土を盛ったり、大きな石を積むことはたいへんな作業で、たくさんの労力と日数が必要でした。ですから、古墳は、その形や大きさ、葬られた人の持っていた力がどのくらい強かったか反映されているといわれています。また、多くの古墳が造られた地域は、相当豊かな地域であったということが出来ます。

古墳はどこに造られているの？

古墳がどこに造られているか見てみると、①南大島川と低い段丘面の高さに大きな差がない飯田工業高校の周辺、②その段丘面の天竜川を望む縁の部分、③南大島川の中流、④土曾川沿い、といった天竜川の支流に近いところに多く造られています。こうした地域はコメ作りが早くから行われ、河川により潤われてコメの収穫も多く、豊かな生活を送っていた人たちが多かったと考えられます。

座光寺にはどんな古墳があるの？

古墳は、上から見た形をもとに、前方後円墳・前方後方墳・円墳・方墳などに分けられています。座光寺の古墳は、高岡1号古墳・北本城古墳の2基の前方後円墳と、帆立貝形古墳（前方後円墳の一種）の新井原12号古墳、それに残りは円墳です。

また、石室の形・造り方をみると、座光寺には大きく分けて二つのタイプの古墳があります。一つは高岡1号古墳・北本城古墳・畦地1号古墳のように側面が平らな石を立てて並べられているものです。竪穴系横口式石室とよばれ、朝鮮半島とつながりがあると考えられています。もう一つは石塚1号古墳・ナギジリ1号古墳のように、石室の側面が自然石を横積みしているものです。

北本城古墳

城にある長さ24m、高さ2.5mの前方後円墳で、座光寺小学校が建てられる前に発掘調査が行われ、石室だけ解体してもとの位置近くに移転復元されています。6世紀はじめに造られた古墳です。



北本城古墳の石室

高岡1号古墳

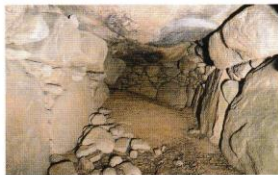
高岡にある全長72.3m、高さ6.3mの前方後円墳で、飯沼天神塚古墳（雲彩寺古墳）に次ぐ大きな古墳です。6世紀前半の古墳で、長野県の史跡に指定されています。



高岡1号古墳の石室

畦地1号古墳

古市場にある6世紀前半に造られた古墳で、大きさは東西15m、南北19.8m、高さ2.5～5.5mの円墳です。石室の入り口は南西側にあり、奥のほうは西側に張りだして広がっています。内部から銀製の長頸式垂飾付耳飾りが出土しています（63ページ）。



畦地1号古墳の石室

石塚1号古墳

宮の前の座光寺自治振興センター横にある円墳です。市内で多くみられるタイプの石室です。



石塚1号古墳の石室

ナギジリ1号古墳

6世紀終わり頃造られ、8世紀まで、6人以上の死者が葬られた円墳です。一つの家族が、100年以上の間、一つの墓に葬り続けたことをうかがうことができます。



ナギジリ1号古墳

高岡の森には誰が埋葬されているの？

高岡の森=高岡1号古墳は、下伊那でも最大級の前方後円墳ですから、当時の下伊那で一番の有力者のお墓だったと考えられます。では、この古墳に誰が葬られていたのでしょうか。文字資料などが古墳から発見されていないので、誰が葬られているのかはわかりません。ただ、死者がおさめられた石室の形が朝鮮半島とのつながりがあること、続く時代に古墳近くに古代伊那郡の役所が置かれたこと、のちにその長官として「金刺 舎人」の名が登場してくること、などの手がかりがあります。

高岡の森の名前はいつついたの？

木がうっそうと茂っていたので森と呼ぶようになったのかもしれませんが、神社の森のことを特に「森」といいます。また、古くは神社を「社」と呼んでいたことがあったようです。江戸時代はじめからの記録が整理されている『北原家年代記』には、1746年（延享3年）に「高岡社」の名前が登場します。これより前から「高岡社」と呼ばれていたことは確かで、あるいは相当古くから「社」があったのかもしれませんが。

古墳が密集して造られていた高岡の森の周辺は、かつて桑畑が広がる、コメ作りには適さないところでした。南大島川が平坦な土地に出てきたところですから、たびたび水害に襲われたと考えられます。そうしたところに古墳を築くという土木工事が繰り返されていることは、水害をふせぐ意図を持って計画的に行われていたといえます。そして、その南側に古代伊那郡の役所が置かれていることは、もしかしたら高岡1号古墳に葬られた人の子孫が、奈良時代にも大きな政治力を持っていたことを示しているのかもしれない。

高岡1号古墳はなぜ石室に朱が塗られてるの？

古い時代には、赤い色には魂を邪悪なものから護り、また鎮めるまじないの力があると信じられていたようで、朱が遺体やそれを包んだ布にふりかけられたり、石室の壁や天井に塗られたり、副葬品として供えられたりしています。北市場の平地9号古墳の石室にも、壁や天井に朱が塗られていました。飯田下伊那では14例と多くみられますが、周辺の地域にはこの風習があまり流行していません。古墳がさかんに造られた近畿地方からの影響を直接受けていると考えられています。

●古墳に副葬された品々



轡 (高岡4号古墳)



轡板のついた轡 (北北城古墳)



鏡板付轡と香案 (新井原・石行遺跡)



車輪 (新井原2号古墳)



辻金具・飾金具 (お丈敷3号古墳)



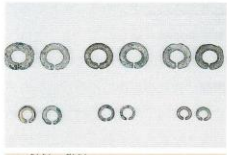
辻金具 (新井原・石行遺跡)



銅鈴 (新井原9号古墳)



ひすいの切子玉など (畦地7号古墳)



金環・鏡環 (ナギジリ1号古墳)



勾玉・切子玉・ガラス玉 (ナギジリ1号古墳)

古墳にはどんなものが副葬されているの？

お墓の中にいろいろな物をおさめることを副葬するといえます。副葬品には、①遺体につけた衣服・装身具・武器など、②死者が生きていた時に持っていた装身具・武器・工具など、③葬式に使ったもの、などがあります。また、副葬品は、死者が生きていた時愛用していたもの、性別や身分・地位を表すもの、死者をなつかしく思いおさめたいもの、などの性格が考えられます。

飯田下伊那の古墳では、武器や馬に乗るために必要な道具(馬具といえます)の副葬が多いのが全国的にみてもきわだっていて、座光寺では金銅製の馬具が多く副葬されています。

馬をいけにえにした古墳

飯田下伊那の古墳時代は、馬具がたくさん副葬されるほか、5世紀を中心に馬が古墳の盛った土のすそや古墳のまわりめぐらした溝(周溝といえます)、あるいは古墳周辺に墓穴などに埋葬される例が多いことが特色で、全国から注目されています。座光寺では、新井原2号古墳の周溝から3体、高岡4号古墳の周溝から1体、新井原・石行遺跡の墓穴から3体、の計7体の馬の骨が見つかっています。その多くは、前方後円墳や帆立貝形古墳といった主要な古墳ではなく、円墳の周溝やその周囲にあることから、首長(その地域を治めた長)個人ではなく、首長と墓地をともにする集団に関連するものであったことが考えられます。



新井原・石行遺跡の馬の墓穴

なぜ馬をいけにえにしたの？

馬は、トラックやトラクター、さらには戦車など、いろんな役割を果たし、たいへん貴重な財産でした。こうした貴重な馬を死者の權威を示す威信財としていけにえにしたという人もいます。また、古墳に立て並べられる馬形埴輪は死者の魂を黄泉の国へ送っていく乗り物ともいわれることから、葬送の儀式に関連して殺され供えられたのかもしれない。

古墳以外のお墓

首長はじめ有力者が葬られた古墳以外に、どのようなお墓があったのでしょうか。古墳のまわりを発掘すると、弥生時代にさかんに造られた方形周溝墓とよばれるそれほど高い盛り土をもたない墓が見つかることがあります。また、長方形に地面を掘りこんだ墓穴だけのお墓が周溝墓のまわりにあった例もあります。古墳は形や大きさが葬られた人の身分や力を示すといいますが、こうしたお墓の形にも当時の人びとの力や地位の差が表れてい

ると考えられます。さらに、火葬が広がる前には一般の民衆の間に遺体を墓場などに遺棄することがあったといわれています。もしかししたら、墓穴など掘らずにざらにされたことがあったかもしれません。

豆知識 まさか歴史 この地もまさか歴史

勾玉と子持勾玉

勾玉とは、装身具として用いられた古代の玉の一種で、頭から尾に向かってしだいに細くCの字状に湾曲し、頭部に小さく丸い穴があげられています。子持勾玉は、少し大きな勾玉の背なか・おなか・わき腹などに、いくつもの小形の勾玉状の突起がついたものです。古墳時代を中心に、古墳や祭りにかかわる遺跡から出土することが多く、祭祀に使われた道具で、古東山道とかかわるのではないかともいわれています。

半の木遺跡の勾玉

座光寺城遺跡の子持勾玉

国内最古の貨幣富本銭が出土したのはなぜ？

わが国ではじめて銅を溶かして型に流しこんで造られたお金の「富本銭」は、高森町武蔵地1号古墳のほか、座光寺地区内の古墳からも1枚出土したと伝えられています。また、恒川遺跡群では「和同開珎」銀銭1枚も発掘されています。これらは、その時代、貨幣が浸透していなかった地方では、古墳に葬られた人などの權威をあらわすものとして使われたと考えられます。続く奈良・平安時代に、座光寺にこの地方を治める役所が置かれたことと大きくかわるものといえます。(馬場保之)



富本銭(左)と和同開珎銀銭

【注】
 轡…馬の口につけてたずなを取り付けるための金具
 鏡板…轡を馬の口に固定するための金具
 飾金具…馬具を飾る金具
 香案…馬具を飾る金具の一つ
 輪…馬に乗る時、足をかける金具
 辻金具…おもいがい・しりがいなど、ひもや革の帯が交わるころにつける金具